

保険で良い歯科医療は

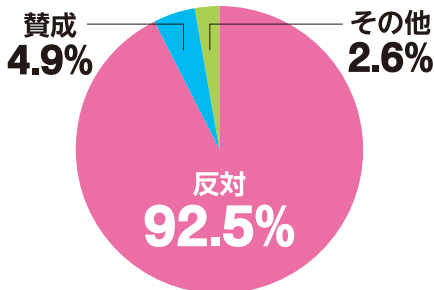
みんなの願いです

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会「市民アンケート」2014年より

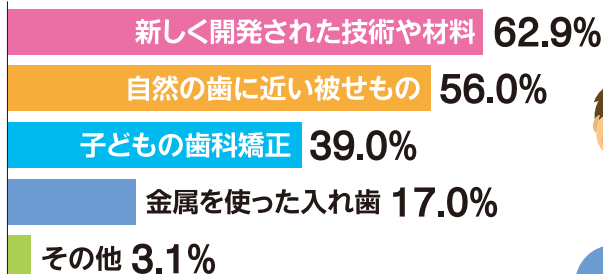
健康保険のきく範囲を広げてほしい

国が保険のきかない治療を増やすことについて92.5%が「反対」と答えています。20歳代から80歳代以上までの各世代で9割前後となっており、保険のきく範囲を縮小することに反対というのが国民共通の意見です。

国が保険のきかない歯科治療を増やすことについて



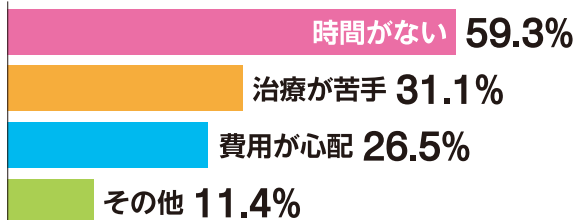
どのような歯科治療を健康保険に取り入れてほしいですか



患者さんの
声より

- 歯は大事な部分ですから、保険のきく治療を多くして欲しいです。(70代・女性)
- 虫歯や歯肉炎にならないための予防に保険が使えるとよいです。(30代・男性)
- 子どもの将来にかかわるので、矯正は絶対に入れてほしい。(30代・女性)
- 金属アレルギーがある場合に、適切な歯科材料を使って保険で治療が受けられるようにしてほしい。(50代・男性)

治療せずに放置している理由は?



現在歯科治療をせずにそのまま放置しているところがあると答えた人は約3割でした。主な理由は、「時間がない」が59.3%で最も高く、「治療が苦手」が31.1%、「費用が心配」が26.5%でした。

今後の歯科受診を控える

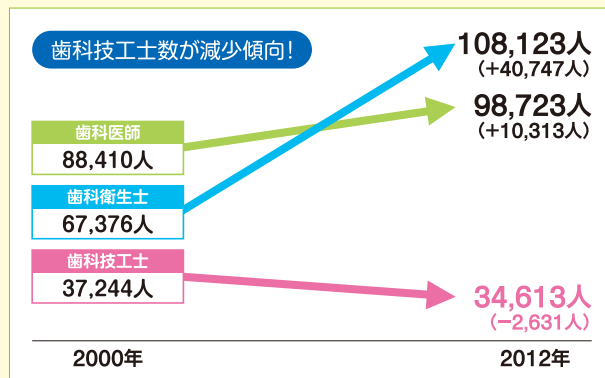
昨年4月に消費税率が8%に引き上げられたことを理由に、今後の歯科受診を「控える」と答えた人が13.2%にものぼりました。

「保険で良い歯科医療の実現」のため、
ウラ面の署名にご協力をお願いします

歯科技工の担い手がなくなる?!

歯科技工士はむし歯などで歯を削ったり、抜歯したりした時に失った部分を補うための義歯(入れ歯)などをつくる歯科医療には欠かすことのできない職業です。

しかし、20歳から25歳未満の歯科技工士の離職率は約8割と言われ、卒後5年以内の離職率は75%(2007年日本歯科技工士会調べ)に上っています。



低賃金・長時間労働と言われる歯科技工士の深刻な実態が改善されなければ、公的な歯科医療を支える担い手が不足することになります。

歯科技工問題を根本的に解決するためにも、低歯科医療費政策の抜本的改善が必要です。

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会

国民医療の向上をめざす
全国保険医団体連合会

いつでも、どこでも、だれもが、お金の心配をせず 「保険で良い歯科医療」の 実現を求める請願署名

衆議院議長・参議院議長 殿

お口の健康は、全身の健康に深く関係しています。歯を治療することによって糖尿病、腎臓病、心筋梗塞、さらには認知症などの改善につながっていることも明らかになってきています。

しかし、日本社会では格差と貧困が拡大し、口腔の健康格差も生じています。さらに、子どもから高齢者まで口腔の健康悪化と崩壊ともいえる深刻な事態が新たに広がっています。

保団連の調査では、経済的理由で歯科治療を中断する人を6割の医療機関で経験しています。大阪や宮城、長野、三重、岩手の調査では、学校歯科健診で要受診とされた児童生徒のうち、小学校で約半数、中学校で3割程度しか受診していないことが報告されています。また、厚労省の調査でも要介護者の約9割が何らかの歯科治療が必要であるにもかかわらず、実際に歯科受診をしたのは3割弱という調査結果もあります。

厳しい労働環境や格差と貧困の広がりや、経済的理由での未受診、歯科治療の早期受診や治療の継続を妨げています。加えて歯科では日常的に普及した治療でも保険のきかない治療があるために、お金の面での不安がさらに受診を妨げる要因になっています。

また、長年にわたる国による歯科医療費の抑制政策のもと、歯科医院の経営は厳しく、入れ歯や詰め物を提供する歯科技工士にもそのしわ寄せがきています。

いつでも、どこでも、だれもお金の心配をせず、「保険で良い歯科医療」を実現することは、患者、国民、歯科医療従事者の共通の願いです。

そのため、以下の事項の実現を求めます。

請 願 項 目

- お金の心配をせず、歯科医療が受けられるよう、窓口負担割合を引き下げてください。
- 保険のきく歯科治療を増やしてください。
- 国の歯科医療にかかわる予算を増やしてください。

お 名 前	ご 住 所